

令和4年12月17日

北見工業大学

**機械知能・生体工学コースの奥村貴史教授グループが、
Linked Open Data (LOD) チャレンジ 2022 の最優秀賞を受賞**

このたび、北見工業大学地域未来デザイン工学科 機械知能・生体工学コースの奥村貴史教授グループが、Linked Open Data チャレンジ 2022 実行委員会（所在：国立情報学研究所）主催の「LOD チャレンジ 2022」において、最優秀賞及びゴールドスポンサー賞（オントロロジー賞）を受賞しました。

LOD チャレンジ 2022 は、さまざまな分野での新たなデータづくり、データ公開、データ共有の仕掛けやオープンデータ活用のアイデア、アプリケーションなどを「作品」として募集し、新たな価値を創出する作品に対して賞が贈呈されるコンテストです。

今回受賞した PLOD（Patient Locational Ontology-based Data）は、新型コロナ感染症によるパンデミックで明らかとなった、個々人が感染した場所やタイミング、感染元の相手を探索していく「積極的疫学調査」を効率化していくための鍵となる技術です。この技術は、今まで困難であった人の移動や行動に関わる情報をコンピュータ上で効率的に表現するための規格であり、標準化されたセマンティックウェブ技術を用いて構築されています。そのため、別途構築した COVID-19 感染リスクに関するオントロジー CIRO（COVID-19 Infection Risk Ontology）と組み合わせることにより、保健所などによる濃厚接触者の特定と隔離などの業務の大幅な効率化が期待されます。さらに、行政機関などの組織は、将来的に、患者の移動情報を適切な匿名化のうえこの形式にて公開することにより、各住民による感染リスクの確認を大幅に効率化することも期待されます。

Linked Open Data チャレンジ 2022 実行委員会は、今回の受賞理由として、『「三密」や「5つの場面」などの政府提言にもとづく感染リスクの自動判定が可能な定義が適切に行われており、追跡調査対象者の順序付けやスクリーニングを大幅に効率化できる可能性』を挙げ、ナレッジグラフの利用事例として最優秀賞に値すると発表しています。

奥村教授は、今回の受賞を受けて、今後、本学における感染対策への活用を通じて実用化に向けた研究を更に進めていきたいとコメントしています。

[受賞作品]

作品名：Patient Locational Ontology-based Data (PLOD)

応募者名：江上周作，山本泰智，大向一輝，奥村貴史

応募者所属：産業技術総合研究所，ライフサイエンス統合データベースセンター，
東京大学，北見工業大学

授賞式：2022年12月17日（土）

[参考サイト]

LOD Challenge 2022 受賞作品発表：<https://2022.lodc.jp/awardPressRelease2022.html>

受賞作品：<https://github.com/PLOD-info/PLOD>

PURSUIT-h：<https://pursuit.hack.kitami-it.ac.jp/ide/r2amed/>

PLOD info：<https://www.plod.info/>